

Flair

Magazine of Teikyo
Alternative Life

「フレア」
TAKE FREE

October 2007 / Autumn
Vol.
67
THE TEIKYO SELF



特集

What's Your Favorite "B"?

Bでつながる、いくつかのコト。



www.teikyo-u.ac.jp/theteikyo/

発行月：2007年10月（年4回発行）発行：帝京大学本部入試広報グループ 〒173-8605 東京都板橋区加賀2-11-1 TEL 03-3964-3073 FAX 03-3964-3175 E-mail: post@med.teikyo-u.ac.jp
URL : <http://www.teikyo-u.ac.jp/theteikyo/> ご意見・ご要望をお待ちしております。郵送またはFAX、E-mailにてお寄せください。©帝京大学 2007 禁・無断転載

CONTENTS

Vol.67 October 2007/Autumn

02 Campus Talk.
Music「音を遊ぶ。音に遊ぶ」

特集

04 What's Your
Favorite "B"?
Bでつながる、いくつかのコト。

10 Good Fellows.
やっぱり仲間が、一番です

12 Good Health.
やっぱり健康が、一番です

13 What's Up?
いま、何やってる？

14 Notice Board
大学からのお知らせです

Flair

Magazine of Tokyo
Alternative Life



Campus Talk.

Music

「音を遊ぶ。音に遊ぶ」

眠い目をこすりながら授業を受けて、ベンチで友達と
たわいもない会話を交わす。いつもと同じ、代わり映えのしない毎日。

芝生の上の小さなミュージックプレーヤーから鳴り響く音楽が、
たくさんの想いと複雑に交錯しながら、ゆっくりと空に溶けてゆく。

きっといつか、こんな何の変哲もない時間こそが、
本当に特別だったと感じる時がやって来る。

バイク＝直線の人生に
用意された、新しい舞台。

去る7月26日～29日、三重県鈴鹿サーキットにて「鈴鹿8時間耐久ロードレース」が開催された。今年で30回目を迎え、「8耐」の愛称で親しまれてきたこの名物ロードレースに、「Team 桜井ホンダ」のライダーとして経済学部津田一磨さんが参戦した。

津田さんのバイクとの出会いは、まだ自転車も乗れなかった5歳の頃だった。

「父親がどこからか子供用のバイクを借りてきたんです。そのバイクを兄と二人で時間を忘れて乗り回していました。初めて乗った時のスピード感が忘れられず、それ以来バイクから離れられなくなっていました」

小・中・高といつもバイクと一緒にだった彼だが、去年は大学入試のために半年間バイクを封印した。ライダーとして伸び盛りのこの時期に半年間のブランクをあげることは、かなり勇気のいる決断だったという。「もちろん不安もありました。でも、尊敬するチームの社長が理想とするライダー像は、速いだけでなく広い視野を持ったライダー。なんです。その考え方に強く影響されて、大学入学を決意しました」

プロライダー兼大学生としての一歩を踏み出した彼のさらなる挑戦に期待したい。

Bike

TEAM SAKURAI HONDA

普段は八王子キャンパスに通う経済学部の学生でありながら、プロのバイクライダーとしても活躍する津田一磨さん。コンマ数秒を競う圧倒的なスピードの先には、何が見えますか？



(写真左) 予選中にチームスタッフと作戦を練る津田さん。「スタッフに信頼されるライダーになりたい」。(写真下) 1000ccのマシンで参戦する「鈴鹿 8 耐」。バックストレートではマシンの最高時速は 295 kmに達するという。結果は予選 17 位、決勝 10 位。三重県鈴鹿サーキットにて。



津田一磨さん Kazuma Tsuda

帝京大学経済学部
経営学科スポーツ経営コース1年
「Team 桜井ホンダ」所属。
現役世界最速のライダー、
バレンティーノ・ロッシに挑
戦するという野望を密かに胸
に抱く、プロライダー。

B!!!



What's Your Favorite “B”?

Bでつながる、いくつかのコト。

子どもの頃、よくコトバ遊びをしませんでしたか？

「しりとり」「カルタ」「あいうえお作文」……。

ひとりでもみんなでも楽しめた、いろんな遊びを思い出せるはず。

たったひとつの文字から広がる世界を純粋に楽しんでいたあの頃。

小さな頭の中に描きだされる発想は、無限の広がりを見せていました。

そんな遊びを思い出しながら、キャンパスに「B」という文字を探してみれば、

そこには、たくさんの夢や希望が存在しています。

それぞれが内に秘めた、小さいけれど熱い想いがつながって、

「帝京大学」という大きな個性が形づくられています。

さあ、あなたはどれだけの「B」を見つけることができますか？

Bioscience

FACULTY OF SCIENCE & ENGINEERING

いま注目のバイオ研究のホープが宝物のように大切にしているもの——
それは、温室栽培のトマトにサヤエンドウ。
世界的発見は、ミニ温室から生まれます。



さまざまな植物が育つ温室で自らの研究を楽しそうに語る野村先生。(宇都宮キャンパスバイオサイエンス棟前ガラスハウスにて)

野村崇人先生 Takahito Nomura

帝京大学理工学部
バイオサイエンス学科助教

野村先生は帝京大学の卒業生。今年4月に助教として母校に戻ってきた。今は植物の遺伝子に関する研究を行う。史上最年少で学会の賞を受賞し、バイオ研究のホープとして注目される存在。

木谷将紀さん Masanori Kitani

帝京大学文学部
日本文学科3年

八王子キャンパスストリートダンスサークル、ビートニクス部長。メンバーたちの指導役。ブレイク、ハウス、ロック、ヒップホップなど、幅広く踊れるダンスクルーをめざす。(写真中央)

Beatnixx

STREET DANCE TEAM

スポットライトを夢見るダンサーたちは、
夜の教室に輝く汗を飛び散らせる。
踊る彼らを見ていたら、胸がキュンとなりました。



この日はロックダンスのクルーのレッスン。思い思いのスタイルで、鏡の中の自分と向き合う。(八王子キャンパス蕨友館 5F 教材研究室にて)



ミニトマトやじゃがいもなど、野村先生の研究対象が集まる温室は、植物が育つ最適な環境が常に整っている。

「教育者として、学生の長所もたくさん見つけてあげたいんです」。発見の対象は、当然、尽きそうにないようだ。

「ほら、このトマトの苗木、他のと比べて背が低いでしょう。これ、植物ホルモンが足りないからなんですよ」。植物の話になると、まるで子供のように瞳がきらきらと輝きはじめる。

「発見の喜びとなり、その感覚は、今携わっている研究での発見にそのままリンクしている、と先生。

今、小さな温室では研究材料のトマトなどを育てている。

植物にもヒトにも、いつも新しい発見をしていたい。

今この瞬間、この事実を知っているのは、世界中で自分だけかも——!? なにか新しい発見をした時にそう思うことが、生きている喜びのひとつかもしれない。

バイオサイエンス学科の野村先生もまた、発見の魅力にとりつかれた人間のひとりだ。子供の頃、ウミユリの化石を偶然見つけた。何億年も前の化石を発掘した驚きが、初めての発見の喜びとなり、その感覚は、今携わっている研究での発見にそのままリンクしている、と先生。



クルーのお気に入り、はきこんだローテクスニーカー。無数の汚れや傷が練習量の証です。

「少しくらいのダンスサーに近づけるよう日々向上していきたいですね。ここからさらに活動を広げられるかもしれないし、可能性はいっぱいあるでしょ。本当はもっと女の子が増えてくれると嬉しいんですけど……。初心者でも大歓迎です！」

目下の目標は秋の青春祭。大ステージに上がることを思うと、モチベーションは最大限に上がるそう。ジャンルごとにチームを組み、木谷さんが各チームの指導にあたっている。

「ものすごい運動量だし自己表現として最高に面白い。ビリーズブートキャンプよりもダンスです！」

午後7時のとある教室。次々と集まってくるのは、ストリートダンスサークル「ビートニクス」のメンバーたちだ。それぞれに柔軟体操を終え、大きな鏡に自分の姿を映しながら、熱心に振り付けを練習し始める。

ストリートダンスについて、部長の木谷さんはこう語る。

「運動量なら「ビリーズブートキャンプ」には負けません。」

Band

BAND MUSIC

放課後、961教室は軽音楽部のスタジオに早変わりする。ステージに上がるのは、3年生バンド「泥人形」。ギターの中野さん、ベースの佐藤さん、ドラムの島崎さん

の3人編成だ。バンドはチームプレイでありメンバーそれぞれの主張がグルーヴの核になるものだから、チームワークが最も大切。今日も彼らのチームワークは最高のようだ。



八王子キャンパス 961 教室にて

Bakery

FRESH BAKERY IN THE CAFETERIA

学食の2階には、いつだって焼きたてパンの良い香りがあふれている。カウンター内のオープンで焼き上げた、40種類ものパンを並べる「ベーカリー・カフェ」。

お昼休みには、学生たちが先を争って列を作る。人気のメロンパンやチュロスは、売り切れ必至だ。今日のランチは何パンに？



八王子キャンパス 蕨友館 2F にて

Basketball

TEIKYO GROUP BASKETBALL COMPETITION

8月11日、夏休みの真っ只中に「帝京グループバスケットボール親睦大会」が開催された。島崎先生（帝京大学バスケット部監督）と穂積先生（帝京高校バスケット部監督）

が発起人となったこの大会は、今年で10回目を迎える。高校・専門学校・大学という枠にとらわれない、帝京グループ全体の交流を深める絶好の機会となっている。



帝京中学・高等学校体育館にて

SPECIAL “B”
FROM HACHIOJI CAMPUS

another

B!!!

八王子キャンパスに新名物が登場!?

帝京メイトPlusリーダーの片岡さん（文学部4年）を中心として、現在、とあるプロジェクトが進行中。仲間と何度も集まってB○○○○○○について話し合う。気になる“新名物”のお披露目は、

10月20日・21日に八王子キャンパスで開催される青春祭で予定されている。無料配布も検討されている新名物の詳細はナゾのままだが、誰もが大好きなアレだ。でも、まだヒミツだそうです。

Board

SKATE BOARD TEAM / SOS

こんなところにスケボーのパークがあったなんて！
ゆるく楽しく広がった、学生ボーダーの輪。



ハンドメイドの練習場で、仲間と過ごす大切な時間

校舎のはずれの一角に、スケートボードのために開放されたエリアがある。色とりどりのボードを抱えて集まってくるのは、スケボーサークルのメンバーだ。バンクやレールは、自分たちでコツコツと作り上げたのだとい

う。「仲間とふらりと立ち寄るんです。ここに偶然集まった人たちと一緒に練習するのが楽しいですよ」
もしかしたら卒業後もここにスケボーしにくるかもね、と楽しそうに話す2人の笑顔が印象的だった。



八王子キャンパス第4コートにて

Special “B” in the Campus!

キャンパスには、「B」が溢れています！

毎日になげなく過ごしているけれど、キャンパスにはたくさんの人の、たくさんの想いが溢れています。
先生や学生の数だけ想いがあって、その数のぶんだけ「B」も存在しています。
八王子キャンパスで、たくさんの「B」のカケラに出会えました。

Boxing

BOXING CLUB

きっかけは人気マンガ『はじめの一步』だった。男の中の男の部分を鍛えるスポーツ。それがボクシングだ。

怠けているヤツになんて負けたくない。

ボクシング部の練習は、ゴングに始まりゴングに終わる。ストイックな集中力でメニューをこなしていく。その背中には、男くさが漂っている。

運命の入れ替え戦を数日後に控えたとある練習日。

「すべては自分の責任。やったらやっただけ返ってくるし、怠ければそれまで」
一生懸命になった分、自分の中の自信となり、それが勝利につながっていくはず。再び響いたゴングの音で、彼らの「男」にスイッチが入った。

八王子キャンパスボクシング部練習場にて



帝京大学女子ラクロス部

Teikyo Univ. women's lacrosse club

練習では、パス練習やミニ・ゲームの他に、鬼ごっこのような独自のメニューをこなすことも。テンションを上げるには最適とのこと。一番の喜びは、やっぱり力を合わせた勝利。研究に研究を重ね、強豪相手に勝ったときは、いつも笑顔の彼女たちも、さすがに感極まったようだ。

「でも、まとまらなくちゃならないとき、ここぞというときには、無理せずまとまれるから不思議なんです（笑）」（副キャプテン／興水真佳さん）

将来の夢は、長南さんがマスコミ関係、井村さんが医療事務、興水さんがスポーツ関係と、それぞれまったく異なるが、目の前にある共通の夢は、11月下旬まで続くリーグ戦で少しでも良い成績を残し、3部に昇格すること。帝京大学女子ラクロス部は、その悲願に向け、今日も奮闘中だ。

ス部は、大学に入ってからこの競技を始めた部員がほとんど。それゆえに、同じスタートラインから、一緒に成長していける喜びが味わえる。中学・高校からの経験者が多い部にはない、ラクロス部ならではの魅力だ。そんなこの部の特徴は、とにかく自由な空気があること。長南さんとは高校時代からの同級生でマネージャーを務める井村志保さんは、「自由すぎて、たまに怒ることもあります」と笑う。

ラクロスという競技は、300年以上の歴史を持つ伝統的なスポーツだが、試合を見たこともなく、ルールも知らないという人が大多数ではないだろうか。そう考えると、気になるのは、入部の理由。『ゴリッ』と呼ばれるキーパーを務めるキャプテンの長南摩耶さんは、

「何気なくキャンパスを歩いていたら、たまたま練習を見かけて、面白そう！ って思ったのがきっかけです。それまでは、どんな競技かも知りませんでした（笑）」

と自身のラクロスとの出会いを語る。長南さん同様、ラクロ

HACHIOJI CAMPUS

LACROSSE

帝京大学女子ラクロス部は、1987年に創設されたクラブ。現在の部員数は、18人を数える。練習は、朝の8時から10時までの約2時間。講義前の貴重な時間を割き、熱心に活動している。笑顔が印象的な、彼女たちの活動の様子を聞いた。



Good Fellows.

やっぱり
仲間が、
一番です

浦和レッズのエースストライカーであり、日本代表としても活躍を続ける田中達也選手。先年ババになったばかりの24歳だ。帝京高校を卒業してから、もう7年の時が経つ。「帝京という名にすごく憧れていました。サッカー部の入部テストに受かって、徳山から出て来たんです」

勉強よりも部活が中心だったという高校生活。グラウンドにいる時間がとにかく長く、早朝から夜遅くまで練習に没頭した。授業には出席していたものの、勉強は苦手だったと笑う。

「練習で疲れ果てて、授業中居眠りしていることも多かったですね。文武両道というまでにはなかなか……。その分サッカーを頑張っていたので大目に見てもらっていたのかもしれません（笑）」

同期は30人。しかし3年になる頃には仲間が20人にまで減っていた。

「練習は厳しかったですよ。上下関係もありました。その分、仲間たちとは固い絆で結ばれたし、下宿生活も思い出深いですね」

なんとしても帝京高校サッカー部のメンバーとして試合に出たい。その情熱がすごい練習を乗り越えるパワーとなった。プロを意識したのは2年の終わり頃。自分でもプロになれると思えた瞬間に、将来の目標が定まったと言う。

帝京高校はスポーツに集中するためにとても良い環境だったと振り返る。

「強豪の運動部が多かったのでも、お互いに刺激を受け合いました。野球部が甲子園へ行ったら、僕らも絶対に選手権に出たいと思うし、良い意味でライバルだったのかもしれません」

筋肉よりも精神面が鍛え抜かれた3年間。そこで学んだことは、生きる自信につながっていると言う。

「親のように叱ってくれることで、僕らはたくさん成長した。サッカー選手というより、人として鍛えられたことに感謝しています。僕の子供にもそんな厳しさを教えていきたいですね」

好きな言葉は「努力」。高校の3年間胸に持ち続けた、忘れえぬ信念だ。

INTERVIEW

帝京高校第32期卒業生 浦和レッドダイヤモンズ所属

田中達也選手

サッカー選手としてというより、人として鍛え抜かれた高校時代だった。

Tatsuya Tanaka・1982年、山口県生まれ。小中学時代の徳山でのサッカー歴を経て、帝京高校に入学。卒業後、2001年に浦和レッズに加入し、日本を代表するFWとして成長した。2005年、日本代表デビュー。ケガを乗り越え、世界の舞台で活躍が続いている。

QUESTION

コンタクトって安全ですか？

「目の病気」というとお年寄りのもの、というイメージが強いけれど、使い捨てコンタクトレンズなどの普及で、若者にも重大な目の疾患が増加中。そこで眼科の鈴木康之先生に、注意すべき目の症状をはじめ、目にまつわるあんなことやこんなこと、伺ってみました。

ANSWER

使用法を守っていれば安全と言えるでしょう。

最近のコンタクトレンズ事情を教えてください。

Dr.・・・ソフトレンズとハードレンズのいずれも、以前に比べて目の角膜との適合性が非常に向上しています。つまり、角膜への負担やストレスが低くなったといえますね。しかし、コンタクトはレンズを直接目に入れるので、どうしても感染症の危険があります。

感染症には、どのようなものがありますか？

Dr.・・・最近目立つ感染症は、コンタクトレンズによるアカントアメーバ感染症です。ここ1ヶ月で数名の感染者が、来

院しました。感染の主な原因は、使い捨てコンタクトレンズのつけっぱなしです。この感染症は、アメーバの一種が角膜に感染して発症する病気で、角膜に白濁が残ってしまい、重度の視力障害を起こす可能性があります。対処法としては、目の痛みや充血などの症状が出たら、すぐに眼科に行くこと。いずれにせよ、説明書に記載されている内容をきちんと守ることが重要です。

なぜ眼科医を専攻されたのですか？

Dr.・・・私が眼科医の道を選んだ理由は、マイクローサージャリー（顕微鏡下で行う微小手術）に強い魅力を感じていたからです。医学部で勉強を続けるう

ちに、細かい技術を使って疾患を治すことに強く関心を抱いたんです。

患者さんへの治療で心がけていることは？

Dr.・・・まず第一に、相手の立場に立って考えることです。患者さんが自身の病気をどのように感じ、何を一番心配しているかを一緒に考えることです。病気が完治するというのは実は非常に少なく、患者さんが100%満足するということとは、稀なことなんです。だからこそ、病気の状態と現在の医学の見解とをしっかりと話し、医療と患者の見解のずれをコミュニケーションで埋めていくことが必要になるんです。

医学部の学生たちのイメージは？

Dr.・・・授業をきっちり聞いている生徒が多いし出席率もいい。とても真面目だと思えますね。あとは、将来のヴィジョンをしっかりと持って勉学に励んで欲しいです。

ところで先生のオススメの店は？

Dr.・・・十条駅近くの「横浜家系ラーメン 藤原家」は美味しいですよ。ほっとひと息つける場所ですね。



鈴木康之教授 Yasuyuki Suzuki

帝京大学医学部医学科
板橋キャンパス 臨床医

1986年東京大学医学部医学科卒。2003年4月 帝京大学医学部附属市原病院（現：帝京大学ちば総合医療センター）教授を経て、2005年7月より現職。日本眼科学会、日本緑内障学会、日本眼薬理学会所属。

Project

熊本県阿蘇郡高森町に
経済学部がホームステイ

経済学部教授の荒井邦壽教授が熊本県
高森町の町おこしプロジェクトに参加
していることが発端で、ゼミ学生 22 人
のホームステイが実現。人口減対策や
企業誘致などの町おこし策を探り、若
者が定着するにはどうしたらいいかを
学生の視点からレポートにまとめる。



Staff Credit

Produce

モーグリーン

MO GREEN

Planner

須藤亮 (MO GREEN)

Ryo Sudo

Illustrator

Shu-Tang Grafix

Shu-Tang Grafix

Photographer

平野太呂

Taro Hirano

ARIKO

横江淳

ARIKO
Jun Yokoe

Editor

大久保和則
田代智久
赤堀雅子 (MO GREEN)
真家一敏 (MO GREEN)

Kazunori Okubo
Tomohisa Tashiro
Masako Akahori
Kazutoshi Maie

Art Director

井口創 (MO GREEN)

So Iguchi

Designer

岡村佳織 (MO GREEN)
織本光太 (MO GREEN)

Kaori Okamura
Kouta Orimoto

Publisher

帝京大学本部入試室
広報グループ

TEIKYO University
Public Relations Group

Flair

発行月：2007年10月（年4回発行）
発行：帝京大学本部入試室広報グループ
〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1
TEL 03-3964-3073 FAX 03-3964-3175
E-mail:post@med.teikyo-u.ac.jp
URL:http://www.teikyo-u.ac.jp/theteikyo/
ご意見・ご要望をお待ちしております。
郵送または FAX、E-mail にてお寄せください。
© 帝京大学 2007 禁・無断転載

Open Lecture

八王子キャンパスにて
秋の公開講座を開催予定

【日程】

①平成 19 年10月27日（土）
②平成 19 年11月10日（土）

【時間】

10：30～12：30

【内容】

①『殺人か？
～裁判員参加による模擬裁判』
／法学部教授 五島幸雄
②『何故勝てなくなったのか？
～元気がでる企業戦略』
／経済学部教授 塚本隆一

【費用】

無料

【申込】

0120-508-739
（各講座とも3日前迄）
http://www.teikyo-u.ac.jp/
※定員は①50名 ②200名。
①で行う模擬裁判での「裁判員」6
名を一般公募します。ご希望の方は、
講座とあわせてお申し込みください。

Editor's Note

今回は、耳寄りな情報をお伝えします。
みなさんは“帝京メイト Plus”を知って
いますか？帝京メイトは、受験生の時に
入会された方も多いはず。様々な特典が
あり、受験生におトクな情報や掲示板、
帝京大学の最新情報などをお伝えしてい
る会員制のサイトです。そんな帝京メイ
トの在学生バージョンが“帝京メイト
Plus”！大学でのイベントや企画に積極
的に参加したり、仲間と共に新たな企画
を練ったりと、笑いあり涙あり（？）の
楽しい大学生たちの集まりです。今号の
9 ページにも、ひそかに登場しています
よ。思い出深い大学生活を送りたい人は、
ぜひ帝京メイト Plus 会員に！興味のある
方は、気軽に問い合わせてくださいね。
☎03-3964-3073☎

See You
Next Issue!!

07年12月10日 Vol.68 配布予定



Workshop

サイエンス・パートナーシップ・
プロジェクトの実施

JST（独立行政法人科学技術振興機構）
にて実施されている SPP（サイエンス・
パートナーシップ・プロジェクト）が理
工学部バイオサイエンス学科の柳原尚
久准教授と野村崇人助教により、7月と
8月の2回にわけて開催された。プラス
チックのケミカルリサイクルや植物ホル
モンについての授業を高校にて行い、
大学では実験や実習、研究施設の見学
などが行われた。このプロジェクトは、
様々な最先端の研究成果や研究施設等
を有する大学などの機関と、中学校や
高等学校等の教育現場との連携により、
児童生徒の科学技術・理科・数学に関
する興味や知的探究心をいっそう高め
る機会を充実させることを目的とし、
連携についての適切なあり方について
JST が調査研究を実施している。今年で
6 年目を迎え、さらなる連携推進が図ら
れそうだ。

Competition

帝京大学の職員が国体に
宮城県代表として出場

医学部・医療技術学部事務部勤務の兜
森智子さんが、9月に行われる第62回国
民体育大会（秋田わか杉国体）において、
硬式テニス宮城県代表として出場。本
学現役職員の国体出場は初めてのこと
で、今後のさらなる活躍が期待される。

Event

千葉ロッテマリーンズ・
帝京大学マッチデー開催

去る 8 月 21 日(火)、『千葉ロッテマリー
ンズ vs 楽天イーグルス戦』において、帝
京大学マッチデーが開催された。帝京大
学は、OBである里崎智也捕手が所属す
る千葉ロッテマリーンズのスポンサー。
マッチデーには球団の協力を得ながら
様々なプロモーション活動を行うことが
できる。当日は、帝京大学チアリーディ
ング部 BUFFALOS によるパフォーマンス
のほか、オープンキャンパスで選ばれ
た高校生によるロッテ・バレンタイン監
督、楽天・野村監督への花束贈呈、
2006 年ミスキャンパスによるファース
トピッチなどが行われたほか、マリー
ンズと帝京大学のダブルネーム入りグッズ
プレゼントや選手のサイン入りグッズ抽
選会なども実施された。在学生のアルバ
イトスタッフを含め、たくさんのスタッ
フの力が集まり、イベントは大盛況の内
に幕を閉じた。



Championship

アジア空手道選手権大会
女子組手60kg級優勝

8 月にマレーシア・セレンバンで開催
された第 8 回アジア空手道選手権大会
で、帝京大学空手道部の佐藤佑香さん
（経済学部 4 年）が大会初日の女子組手 6
0kg 級において、見事優勝に輝いた。大
会 3 日目に行われた女子団体組手でも、
日本チームは優勝を収めている。

Exchange

日韓大学生フィールドトリップ2007
全国から20名の大学生が参加

観光政策への理解増進と日韓交流の拡
大を図る目的で国土交通省と韓国政府
が共催するこの事業に、経済学部観光
経営学科 2 年の山城美樹さんが参加。9
月 3 日から 6 日間の日程で韓国政府や慶
州文化博覧会などを訪れ、現地大学生
との交流会も行った。

Competition

関東チアリーディング選手権大会
Division1大学の部で2位獲得

7月に、日本チアリーディング協会主催の
「第9回関東チアリーディング選手権大会」
が代々木競技場第二体育館で開催。チア
リーディング部 BUFFALOS は 2 位を獲
得した。その後開催された「ジャパカン
ップ」では、Division1大学の部で8 位とい
う好成績を収めた。

Notice Board

大学からのお知らせです

Championship

ユニバーシアード競技大会
女子柔道78kg級優勝

8 月にタイ・バンコクで開催された第 2 4
回ユニバーシアード競技大会で、帝京
大学女子柔道部の穴井さやかさん（経
済学部 3 年）が見事優勝。昨年経済学
部を卒業した宇高菜絵さん（現:コマツ）
も 57 kg 級で優勝を収めるなど、今後も
柔道部の活躍が期待される。

Disaster Medical

新潟県中越沖地震被災地へ
医療チームを派遣

7月16日に発生した新潟県中越沖地震の
被災地に、医師会の要請を受けて帝京
大学医学部附属病院から医療チームを
派遣。地震直後から現地入りした医師
らは、柏崎市内の避難所を1日10ヶ所ほ
ど訪れ、被災者の診療にあたるなど現
地の災害医療に貢献した。

